

経営ビジョン「アジアNo.1のエアライン」の実現を目指し、 新たな価値創造に取り組んでまいります。



当期(2008年3月期)は、燃油価格の高騰、国内線における新幹線や他航空会社との競争激化など、引き続き厳しい経営環境にありました。いかなる環境においても安定的に利益を生み出せる企業体質の構築を進めてきた結果、燃油価格の歴史的な高騰にもかかわらず、当期は当初計画を上回る営業利益を計上することができました。また、安定的な利益の積み上げに加えて、2006年3月の公募増資、2007年6月のホテル事業資産の譲渡などを通じて、本業の航空運送事業に経営資源を集中させ、同時に財務基盤の強化を進めることができました。

成田国際空港・東京国際空港(羽田空港)の発着枠拡大が2010年に確定したことや燃油価格高騰の継続など、ANAを取り巻く環境の変化を踏まえ、2008年1月に、新たに「ANAグループ 2008-11中期経営戦略」を策定いたしました。この中期経営戦略の目指すものは、経営ビジョン「アジアNo.1のエアライン」の実現と、それを将来にわたって継続する強固な経営基盤の確立です。「安全」運航を堅持し、「グループ」の経営資源を有効活用しながら、事業領域の「グローバル化」と事業構造の「イノベーション」の推進を成長への原動力と位置づけて、新たな価値創造を進めてまいります。

中期経営戦略を着実に推進して成長のチャンスを実確にとらえることにより、期待にお応えしていく所存です。

株主・投資家の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年7月

代表取締役社長 山元 峯生

山元 峯生